

伸長を図りたい子供の持つ可能性(3) －生涯学習の視点に立って－

Bring up The Children's Possibility (3) － A Visual Point of Life Studies －

¹ 熊田藤作・² 柴崎正行・³ 柳下昭夫・⁴ 高橋裕子・³ 菊池健夫・³ 福田啓子

Tousaku KUMADA, Masayuki SHIBASAKI, Akiyo YAGISHITA,
Yuuko TAKAHASHI, Takeo KIKUCHI and Keiko FUKUDA

はじめに

個性を尊重することについては、戦後、提唱され続けてきたが、効率を上げる必要性から画一的な教育が行われてきたことは事実である。

現代の社会の思潮とともに教育の見直しが図られ、個性を生かす指導について工夫されつつあるが子供がどのような力を持っているのかが明確でない。子供の持っている資質や能力について把握し、生涯学習の視点に立って、可能な限りの伸長を図るこれからの教育に生かすことを研究の目的とする。この目的によって研究主題を表題のように設定した。

本研究主題の解決に当たっては、グループのメンバーの専門とする領域等について、主要な資質や能力を抽出し、子供がどのように身に付けていくのかを明らかにすることを考えた。しかしながら、その前提として学校教育に様々な課題があることを把握しておく必要があるのではないか。またその確認を通し、メンバーの専門とする領域等について、主要な資質な能力を抽出し、子供がどのように身に付けていくのかを明らかにすることができる。

このような考えに基付いて、初年度である平

成8年度から平成10年度の研究の経緯を以下に記述する。

I 社会から学校教育への要請

学校教育に様々な課題すなわち、どのような人間を育てることを社会が要請しているのかを把握するため、中央教育審議会や教育課程審議会の答申等に着目してみた。後記の参考文献にある通り、本グループで取り上げた事項は18あるが、主要な事項は下記のものである。

□主要な事項

(1) 昭和40年 中央教育審議会「期待される人間像」から検討した。特に、

・第二部「日本人に特に期待されるもの」

(1章) 個人として

- ① 自由であること
- ② 個性を伸ばすこと
- ③ 自己を大切にすること
- ④ 強い意志をもつこと
- ⑤ 畏敬の念をもつこと

に注目した。

(2) 昭和56年 中央教育審議会「生涯教育について」は、最も重視した事項である。

(第3章) 成人するまでの教育

3. 学校教育における生涯教育の視点の重視

① 学習のための意欲、能力の涵養

幼稚園教育においては、幼児の情操や創造性を育むとともに、集団生活を通じて社

1. 造形教育研究室
2. 幼児教育学研究室
3. 初等教育研究室
4. 教育・保育実習研究所

会性を養うことが必要である。

小学校教育においては、まず自動的学習意欲の芽を育むことに教育の主眼を置き、具体的な活動を通じて学習指導を展開し、基礎的な知識・技能を修得させることを重視すべきである。また、児童の発達に応じて、一人一人が自主的に学び、活動する力を養うため、児童の多様な能力・関心に積極的に働きかけるように努めるとともに、学年を超えた異年齢層の児童の接触・交流がもたらす教育的効果にも配慮し、その一層の推進を図ることが望まれる。

に注目した。

(3) 昭和58年 中央教育審議会 教育内容等
小委員会審議経過報告

一、時代の変化と学校教育の在り方

4. 今後特に重視されなければならない視点

- ① 自己教育力の育成
- ② 基礎・基本の徹底
- ③ 個性と創造性の伸長
- ④ 文化と伝統の尊重

については、その全てを検討の対象とした。

(4) 昭和62年 臨時教育審議会 「我が国における社会の変化及び文化の発展に対応する教育の実施を期して各般にわたる施策に関し必要な改革を図るための基本的方策について」
第四次答申（最終答申）

二、教育改革の視点

1. 個性重視の原則
2. 生涯学習体系への移行
3. 変化への対応

①国際社会への貢献 ②情報社会への対応

は、本研究と最も関わりの深いところである。

また、以下の2項目は要素の抽出で、最も数の多いところである。

(5) 昭和62年 教育課程審議会 「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教育課程の基準の改善について」

一、教育課程の基準の改善の方針

1. 教育課程の基準の改善のねらい

- ・ 豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を図ること
- ・ 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すること
- ・ 国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図ること
- ・ 国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること

(6) 平成元年 文部省「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」

(7) 平成2年 中央教育審議会「生涯学習の基盤整備について」

は、本研究の重要な要素でもある。

(8) 平成7年 第15期中央教育審議会発足

(平成7.4.26)

(諮問事項)

21世紀を展望した我が国の教育の在り方について

- ① 今後における教育の在り方及び学校・家庭・地域社会の役割と連携の在り方
- ② 一人一人の能力・適性に応じた教育と学校間の接続の改善
- ③ 国際化、情報化、科学技術の発展等社会の変化に対応する教育の在り方

(9) 平成8年 中央教育審議会第一小委員会
「審議のまとめ」 (平成8.7.19)

〈教育内容の重点化〉

- ① 国語を尊重する態度を育てるとともに、国語により適切に表現する能力と的確に理解する能力を養い、思考力、想像力、言語感覚を育てること
- ② 様々な事象を数理的に考察し、処理する能力と論理的な思考力を育てること
- ③ 我が国の文化と伝統に対する理解と愛情、世界と日本との関わりについての理解を図ること
- ④ 諸外国の文化に対する理解とこれを尊

重なる態度及び外国語によるコミュニケーション能力を育てること

- ⑤ 民主的社會の一員としての基本的な知識と態度，社會的事象についての公正な判断力を育てること
- ⑥ 自然や科学についての見方や考え方，科学的思考力・判断力を育てること
- ⑦ 家庭生活や社會生活の意義や向上改善のために必要な基本的知識，技術の習得，職業や家庭生活に関する主体的実践的な態度を育てること
- ⑧ 表現・鑑賞活動を通して，音楽や美術など芸術を愛好する心得，芸術に対する豊かな感性，情操の基礎を育てること
- ⑨ 運動活動，健康保持増進活動等を通して，運動に親しむ習慣，健康で安全な生活を生涯にわたって送る態度の基礎を培うこと
- ⑩ 情報の理解，選択，処理，創造などの能力及び情報手段を活用する能力や態度を育てること
- ⑪ 新しい課題を見出し，それに対して，身に付けた知識や技能を総合的に活用して，問題解決や探究活動に主体的に取り組む能力や態度を育てること
- ⑫ 自らを律しつつ，他人を思いやる心，生命を尊重する心や感動する心，公德心，ボランティア精神，郷土や国を愛する心，世界の平和や国際親善に努める心など豊かな人間性を育てるとともに，自分の生き方を主体的に考える態度を育てること
〈生きる力〉

家庭教育の在り方において

- ① 基本的な生活習慣・生活能力の習慣
- ② 豊かな情操の形成，他人に対する思いやり，善悪の判断などの基本的倫理観
- ③ 自制心，自立心

ここからも，重視される多くの資質や能力を抽出した。

(10) 平成9年 教育課程審議会「中間まとめ」
(平成9.11.17)

1. 教育課程の基準の改善の方針

(各学校段階の役割の基本)

小学校においては，個人として，また，国家・社會の一員として社會生活を営む上で必要とされる知識・技能・態度の基礎を身に付け，豊かな人間性を育成するとともに，自然や社會，人，文化など様々な対象とのかかわりを通じて自分のよさ・個性を発見する素地を養い，自立心を培うことが求められている。

2. 時代を超えて変わらない価値あるもの
正義感や公正さを重んじる心，自らを律しつつ，他人と協調し，他人を思いやる心，人権を尊重する心，自然を愛する心などの豊かな人間性を培うこと，国語をしっかりと身に付けること，我が国の歴史や文化を学び，それらを大切にすることを培うこと，たくましく生きるための健康や体力を培うことなどの重要性が指摘されている。

3. 教育課程の基準の改善のねらいから

豊かな人間性や社會性，国際社會に生きる日本人としての自覚，自ら学び，自ら考える力，基礎・基本の確実な定着と個性を生かす。
ここには，今後において，重視される多くの資質や能力が示されている。

II 児童に関する調査

菊池 健夫

平成10年度においても，幼児と児童に関わる事項について調査研究を行った。はじめに，児童に関わる事項について記述する。

1. 資質や能力等の抽出と調査の実施

これまでの中央教育審議会や教育課程審議会の答申等に基付いて，そこで提唱されている資質や能力並びに態度を客観的に抽出してみた。それが次ページの表1の内容項目である。全てで60項目である。これらについての子供の意識

表1 子供の持つ資質や能力

資質や能力	
A. 心に関わる事項(4項目選択)	
1. 正しいことを大切にすること	
2. 知識を求める心	
3. 自然を愛する心	
4. 自分の力で物事をやっというこうとする心	
5. 美しいものに感動する心	
6. 傷れているものに感動する心	
7. 生命を尊重する心	
8. 他人を思いやる心	
9. 感謝の心	
10. 公共のために尽くす心	
11. 自分の感情をおさえる心	
12. 健やかな心	
13. 豊かな心	
	13項目
B. 態度に関わる事項(2項目選択)	
14. 自然に対する興味や関心	
15. 社会に対する興味や関心	
16. よりよいものを目指し、その実現を図る態度	
17. 自分の生きる目標を求め、その実現に努める態度	
18. 強い意志と実行する力	
19. 社会のきまりを守る態度	
	6項目
C. 生活に関わる事項(2項目選択)	
20. 日常の生活のしかた	
21. 自分の生き方を自分で考える態度	
22. 生活を向上させる知識や方法	
23. 良いことわるいことの判断	
24. だれに対しても同じように接する態度	
	5項目
学習に関わる事項(3項目選択)	
25. 学習に対するやる気	
26. すじみちを立てて考える力	
27. 新しいことを考え出す力	
28. 音声や絵図などで表現する力	
29. 学習したことの知識の量や力	
30. 問題を自分の力で解決する力	
31. 分からないことがらを自分の力で探し出す力	
	7項目
E. 各教科等に関わる事項(4項目選択)	
32. 正しい言葉で適切に表現する力	
33. 国語を正しく理解する力	
34. 社会の問題をすずんで解決しようとする力	
35. 社会のできごとを公正に考える力	
36. 算数で考えたり計算したりする力	
37. 理科で考えたり観察したりする力	
38. 音楽が好き	
39. 図画工作が好き	
40. 芸術に対する豊かな心	
41. 家庭科で実践的に活動する力	
42. 運動をして健康な体をつくる態度	
	11項目
F. 国際理解に関する事項(2項目選択)	
43. 国語を尊重する態度	
44. 日本の文化と伝統を大切に思う心	
45. 世界と日本とのかわりについての知識	
46. 諸外国の文化を大切に思う心	
47. 諸外国の文化についての知識	
48. 民主的社會の一員としての自覚	
	6項目
G. 生きる力に関わる事項(4項目選択)	
49. 家庭生活や社会生活を向上させる力	
50. 健康で安全な生活をいつまでも続ける態度	
51. 運動に親しむ習慣	
52. 健やかな身体	
53. たくましい体力	
54. 道徳を大切にすること	
55. コンピュータを活用する力	
56. 外国語を学んで外国の人と接しようとする態度	
57. 身に付けた知識や技能を活用する力	
58. ボランティア活動を大切にすること	
59. 郷土や国を愛する心	
60. 世界の平和や国際親善に努める心	
	12項目

表2 子供の持つ資質や能力 5年男子

資質や能力		選択数
A. 心に関わる事項		
1. 正しいことを大切にすること		25
2. 知識を求める心		29
3. 自然を愛する心		51
4. 自分の力で物事をやっというこうとする心		37
5. 美しいものに感動する心		24
6. 傷れているものに感動する心		27
7. 生命を尊重する心		25
8. 他人を思いやる心		33
9. 感謝の心		42
10. 公共のために尽くす心		5
11. 自分の感情をおさえる心		30
12. 健やかな心		15
13. 豊かな心		16
B. 態度に関わる事項		
14. 自然に対する興味や関心		53
15. 社会に対する興味や関心		27
16. よりよいものを目指し、その実現を図る態度		13
17. 自分の生きる目標を求め、その実現に努める態度		32
18. 強い意志と実行する力		35
19. 社会のきまりを守る態度		22
C. 生活に関わる事項		
20. 日常の生活のしかた		30
21. 自分の生き方を自分で考える態度		56
22. 生活を向上させる知識や方法		10
23. 良いことわるいことの判断		53
24. だれに対しても同じように接する態度		29
D. 学習の仕方に関わる事項		
25. 学習に対するやる気		40
26. すじみちを立てて考える力		23
27. 新しいことを考え出す力		57
28. 音声や絵図などで表現する力		22
29. 学習したことの知識の量や力		16
30. 問題を自分の力で解決する力		43
31. 分からないことがらを自分の力で探し出す力		50
E. 各教科等に関わる事項		
32. 正しい言葉で適切に表現する力		26
33. 国語を正しく理解する力		19
34. 社会の問題をすずんで解決しようとする力		16
35. 社会のできごとを公正に考える力		19
36. 算数で考えたり計算したりする力		49
37. 理科で考えたり観察したりする力		40
38. 音楽が好き		24
39. 図画工作が好き		47
40. 芸術に対する豊かな心		21
41. 家庭科で実践的に活動する力		27
42. 運動をして健康な体をつくる態度		64
F. 国際理解に関する事項		
43. 国語を尊重する態度		20
44. 日本の文化と伝統を大切に思う心		60
45. 世界と日本とのかわりについての知識		45
46. 諸外国の文化を大切に思う心		17
47. 諸外国の文化についての知識		8
48. 民主的社會の一員としての自覚		16
G. 生きる力に関わる事項		
49. 家庭生活や社会生活を向上させる力		22
50. 健康で安全な生活をいつまでも続ける態度		52
51. 運動に親しむ習慣		55
52. 健やかな身体		30
53. たくましい体力		32
54. 道徳を大切にすること		13
55. コンピュータを活用する力		37
56. 外国語を学んで外国の人と接しようとする態度		24
57. 身に付けた知識や技能を活用する力		29
58. ボランティア活動を大切にすること		29
59. 郷土や国を愛する心		15
60. 世界の平和や国際親善に努める心		5

N=99

表3 子供の持つ資質や能力 5年女子

資質や能力	選択数
A. 心に関わる事項	
1. 正しいことを大切にすること	17
2. 知識を求め心	22
3. 自然を愛する心	41
4. 自分の力で物事をやっいてこうとする心	32
5. 美しいものに感動する心	32
6. 優れているものに感動する心	15
7. 生命を尊重する心	23
8. 他人を思いやる心	45
9. 感謝の心	32
10. 公共のために尽くす心	6
11. 自分の感情をおさえる心	28
12. 健やかな心	7
13. 豊かな心	17
B. 態度に関わる事項	
14. 自然に対する興味や関心	48
15. 社会に対する興味や関心	17
16. よりよいものを目指し、その実現を図る態度	16
17. 自分の生きる目標を求め、その実現に努める態度	30
18. 強い意志と実行する力	31
19. 社会のきまりを守る態度	17
C. 生活に関わる事項	
20. 日常の生活のしかた	24
21. 自分の生き方を自分で考える態度	49
22. 生活を向上させる知識や方法	15
23. 良いこととわるいことの判断	47
24. だれに対しても同じように接する態度	21
D. 学習の仕方に関わる事項	
25. 学習に対するやる気	35
26. すじみちを立てて考える力	10
27. 新しいことを考え出す力	48
28. 音声や絵図などで表現する力	53
29. 学習したことの知識の量や力	9
30. 問題を自分の力で解決する力	30
31. 分からないことから自分の力で探し出す力	34
E. 各教科等に関わる事項	
32. 正しい言葉で適切に表現する力	18
33. 国語を正しく理解する力	23
34. 社会の問題をすすんで解決しようとする力	11
35. 社会のできごとを公正に考える力	10
36. 算数で考えたり計算したりする力	11
37. 理科で考えたり観察したりする力	36
38. 音楽が好き	58
39. 図画工作が好き	49
40. 芸術に対する豊かな心	27
41. 家庭科で実践的に活動する力	46
42. 運動をして健康な体をつくる態度	33
F. 国際理解に関する事項	
43. 国語を尊重する態度	27
44. 日本の文化と伝統を大切に思う心	39
45. 世界と日本とのかかわりについての知識	29
46. 諸外国の文化を大切に思う心	20
47. 諸外国の文化についての知識	7
48. 民主的社會の一員としての自覚	22
G. 生きる力に関わる事項	
49. 家庭生活や社会生活を向上させる力	25
50. 健康で安全な生活をいつまでも続ける態度	47
51. 運動に親しむ習慣	24
52. 健やかな身体	20
53. たくましい体力	5
54. 道徳を大切にすること	33
55. コンピュータを活用する力	28
56. 外国語を学んで外国の人と接しようとする態度	32
57. 身に付けた知識や技能を活用する力	30
58. ボランティア活動を大切にすること	36
59. 郷土や国を愛する心	17
60. 世界の平和や国際親善に努める心	17

N=85

表4 子供の持つ資質や能力 5年全員

資質や能力	5年全員計
A. 心に関わる事項	
1. 正しいことを大切にすること	42
2. 知識を求め心	51
3. 自然を愛する心	92
4. 自分の力で物事をやっいてこうとする心	69
5. 美しいものに感動する心	56
6. 優れているものに感動する心	42
7. 生命を尊重する心	48
8. 他人を思いやる心	78
9. 感謝の心	74
10. 公共のために尽くす心	11
11. 自分の感情をおさえる心	58
12. 健やかな心	22
13. 豊かな心	33
B. 態度に関わる事項	
14. 自然に対する興味や関心	101
15. 社会に対する興味や関心	44
16. よりよいものを目指し、その実現を図る態度	29
17. 自分の生きる目標を求め、その実現に努める態度	62
18. 強い意志と実行する力	66
19. 社会のきまりを守る態度	39
C. 生活に関わる事項	
20. 日常の生活のしかた	54
21. 自分の生き方を自分で考える態度	105
22. 生活を向上させる知識や方法	25
23. 良いこととわるいことの判断	100
24. だれに対しても同じように接する態度	50
D. 学習の仕方に関わる事項	
25. 学習に対するやる気	75
26. すじみちを立てて考える力	33
27. 新しいことを考え出す力	105
28. 音声や絵図などで表現する力	75
29. 学習したことの知識の量や力	25
30. 問題を自分の力で解決する力	73
31. 分からないことから自分の力で探し出す力	84
E. 各教科等に関わる事項	
32. 正しい言葉で適切に表現する力	44
33. 国語を正しく理解する力	42
34. 社会の問題をすすんで解決しようとする力	27
35. 社会のできごとを公正に考える力	29
36. 算数で考えたり計算したりする力	60
37. 理科で考えたり観察したりする力	76
38. 音楽が好き	82
39. 図画工作が好き	96
40. 芸術に対する豊かな心	48
41. 家庭科で実践的に活動する力	73
42. 運動をして健康な体をつくる態度	97
F. 国際理解に関する事項	
43. 国語を尊重する態度	43
44. 日本の文化と伝統を大切に思う心	99
45. 世界と日本とのかかわりについての知識	74
46. 諸外国の文化を大切に思う心	37
47. 諸外国の文化についての知識	15
48. 民主的社會の一員としての自覚	38
G. 生きる力に関わる事項	
49. 家庭生活や社会生活を向上させる力	47
50. 健康で安全な生活をいつまでも続ける態度	99
51. 運動に親しむ習慣	79
52. 健やかな身体	50
53. たくましい体力	37
54. 道徳を大切にすること	46
55. コンピュータを活用する力	65
56. 外国語を学んで外国の人と接しようとする態度	56
57. 身に付けた知識や技能を活用する力	59
58. ボランティア活動を大切にすること	65
59. 郷土や国を愛する心	32
60. 世界の平和や国際親善に努める心	22

N=184

を昨年度に引き続き、小学校において調べた。

AからGの各項目について、表1にあるような選択数を設定し、児童自らが、十分に保有しているとする資質や能力並びに態度を挙げるようにした。都内の公立小学校7校に、5年生を対象に調査を依頼、5年生男子99名、女子85名、計184名の回答を得た。男子の結果は表2、女子の結果は表3、全体は表4の通りである。

2. 調査の結果

昨年度と、本年度は、児童対象の調査を行い本年度の結果と一昨年の教員、学生の結果とを対比してみた。

それらを、一覧表にしたものが、次ページの表5であり、Aの「心に関わる事項」から、Gの「生きる力に関わる事項」までをグラフ化したものが、図1から図7である。

A. 心に関わる事項(図1)

自然愛護、他人を思いやる心、感謝の心などを児童は持っているとしている。反面、公共のために尽くす、豊かな心、健やかな心などは少ないとしている。

これに対し、教員は、他人を思いやる心と生命尊重の心を強調している。学生は、他人を思いやる心が圧倒的に多く、生命の尊重、感謝の心、健やかな心と続いている。

B. 態度に関わる事項(図2)

児童は、自然に対する興味や関心、実行力はあるとしている。反面、社会の決まりを守る態度や、よりよいものを目指す態度は少ないとしている。

教員は、児童が弱いとしている自己実現の態度を重視している。学生は、強い意思と実行力、生きる目標を求め、その実現に努めることを挙げている。

C. 生活に関わる事項(図3)

児童は、善悪の判断や生き方を考える力はある。とし他人に対して公平に接する態度や生活を向上させる知識や方法はないとしている。

教員は、良いことや悪いことの判断や日常の

生活の仕方に重きを置いています。学生は、善悪の判断や日常の生活の仕方を挙げている。

D. 学習の仕方に関わる事項(図4)

児童は、創造する力や探求心、学習意欲はあるとし、筋道を立てて考えたり、学習したことの知識の量や力は少ないとしている。

教員は、表現力について強調し、学生は、表現力、創造力、探求心、問題解決力などを取り上げている。

E. 各教科等に関わる事項(図5)

児童は、運動が大好きで、図画工作や音楽を好み、理科で考えたり、観察したりする力があるとしている。一方、社会のできごとを公正に考えたり、社会の問題をすすんで解決しようとする力は少ないとしている。

教員は教科について特に強調していない。強いて挙げるならば、音楽、図画工作、芸術に対する豊かな心などである。学生も、運動をして健康な体をつくる態度等を挙げ、教科については特に強調している項目がない。

F. 国際理解に関わる事項(図6)

児童は、日本の文化と伝統を大切に思う心や世界と日本の関わりについての知識はあるとし、諸外国の文化についての知識が乏しいとしているが、当然と言える。

この項についても教員の目立った強調点はないが、民主的社会の一員としての自覚を挙げている。学生は、世界と日本の関わりについての知識を挙げている。

G. 生きる力に関わる事項(図7)

児童は、運動に親しむ習慣や健康で安全な生活を続ける習慣があり、コンピュータを好み、ボランティアを重視している。一方、世界の平和や、国際親善に努める心に欠け、道徳を大切にしたり、郷土や国を愛する心に欠けるとしている。

教員は道徳性、ボランティア活動やたくましさを重視していて、学生は、健やかな身体が突出している。

伸長を図りたい子供の持つ可能性

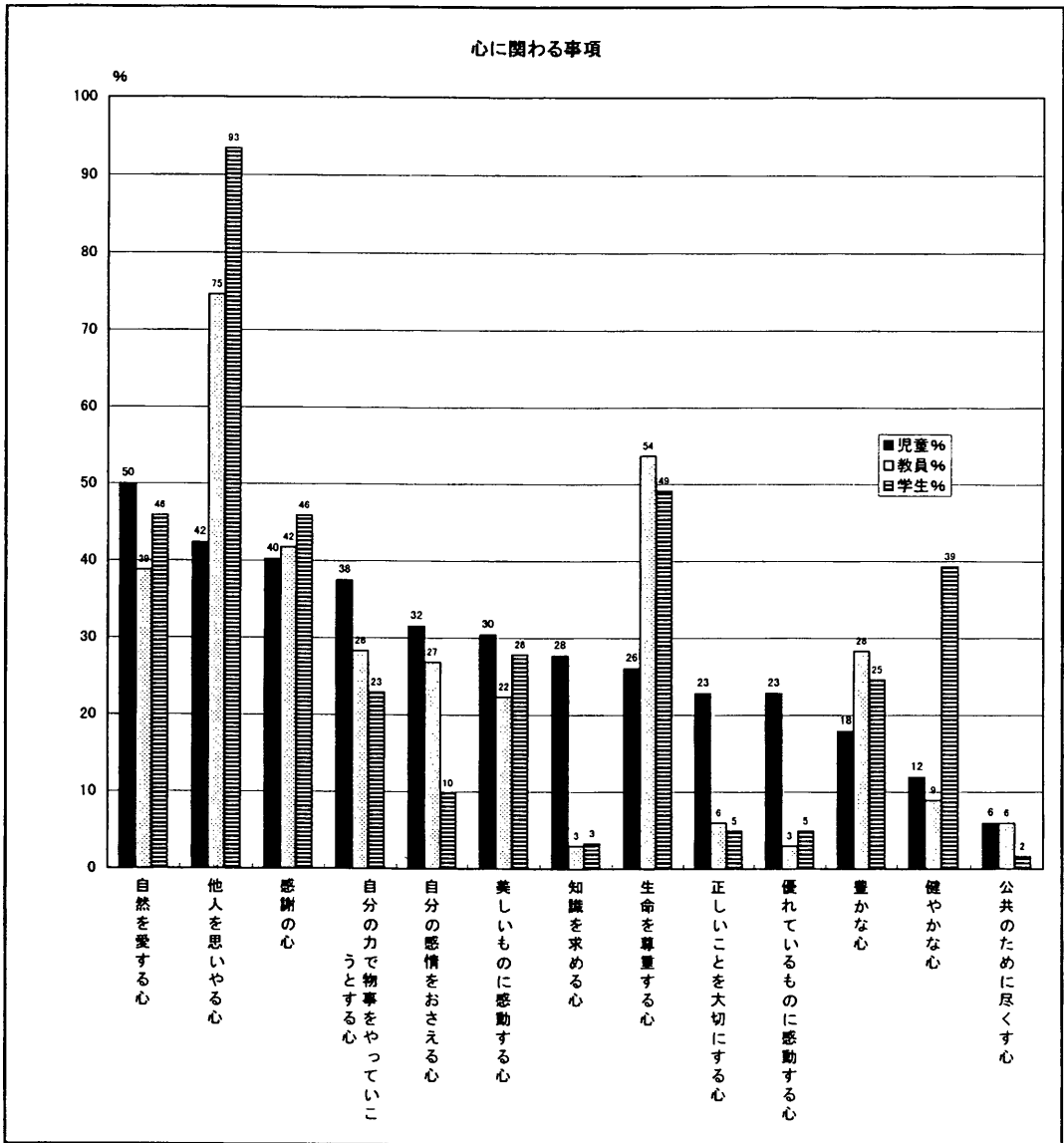
表5 子供が持つとする資質や能力 5年児童
子供に持たせたい資質や能力 教員・学生

資質や能力についての回答						
	児童回答数	児童%	教員回答数	教員%	学生回答数	学生%
A. 心に関わる事項						
1. 正しいことを大切にすること	42	23	4	6	3	5
2. 知識を求める心	51	28	2	3	2	3
3. 自然を愛する心	92	50	26	39	28	46
4. 自分の力で物事をやっというとする心	69	38	19	28	14	23
5. 美しいものに感動する心	56	30	15	22	17	28
6. 優れているものに感動する心	42	23	2	3	3	5
7. 生命を尊重する心	48	26	36	54	30	49
8. 他人を思いやる心	78	42	50	75	57	93
9. 感謝の心	74	40	28	42	28	46
10. 公共のために尽くす心	11	6	4	6	1	2
11. 自分の感情をおさえる心	58	32	18	27	6	10
12. 健やかな心	22	12	6	9	24	39
13. 豊かな心	33	18	19	28	15	25
B. 態度に関わる事項						
14. 自然に対する興味や関心	101	55	5	7	11	18
15. 社会に対する興味や関心	44	24	5	7	11	18
16. よりよいものを目指し、その実現を図る態度	29	16	20	30	9	15
17. 自分の生きる目標を求め、その実現に努める態度	62	34	11	16	14	23
18. 強い意志と実行する力	66	36	16	24	5	8
19. 社会のきまりを守る態度	39	21	10	15	12	20
C. 生活に関わる事項						
20. 日常の生活のしかた	54	29	22	33	14	23
21. 自分の生き方を自分で考える態度	105	57	16	24	5	8
22. 生活を向上させる知識や方法	25	14	1	1	3	5
23. 良いこととわるいことの判断	100	54	34	51	38	62
24. だれに対しても同じように接する態度	50	27	10	15	2	3
D. 学習の仕方に関わる事項						
25. 学習に対するやる気	75	41	4	6	6	10
26. すじみちを立てて考える力	33	18	2	3	1	2
27. 新しいことを考え出す力	105	57	14	21	18	30
28. 音声や絵図などで表現する力	75	41	16	24	24	39
29. 学習したことの知識の量や力	25	14	2	3	6	10
30. 問題を自分の力で解決する力	73	40	13	19	18	30
31. 分からないことがらを自分の力で探し出す力	84	46	13	19	18	30
E. 各教科等に関わる事項						
32. 正しい言葉で適切に表現する力	44	24	5	7	3	5
33. 国語を正しく理解する力	42	23	1	1	1	2
34. 社会の問題をすんで解決しようとする力	27	15	7	10	1	2
35. 社会のできごとを公正に考える力	29	16	7	10	1	2
36. 算数で考えたり計算したりする力	60	33	0	0	0	0
37. 理科で考えたり観察したりする力	76	41	7	10	2	3
38. 音楽が好き	82	45	10	15	4	7
39. 図画工作が好き	96	52	10	15	4	7
40. 芸術に対する豊かな心	48	26	10	15	4	7
41. 家庭科で実践的に活動する力	73	40	6	9	5	8
42. 運動をして健康な体をつくる態度	97	53	7	10	13	21
F. 国際理解に関する事項						
43. 国語を尊重する態度	47	26	2	3	1	2
44. 日本の文化と伝統を大切に思う心	99	54	3	4	7	11
45. 世界と日本とのかわりについての知識	74	40	2	3	10	16
46. 諸外国の文化を大切に思う心	37	20	1	1	2	3
47. 諸外国の文化についての知識	15	8	4	6	3	5
48. 民主的の社会の一員としての自覚	38	21	5	7	2	3
G. 生きる力に関わる事項						
49. 家庭生活や社会生活を向上させる力	47	26	2	3	3	5
50. 健康で安全な生活をいつまでも続ける態度	99	54	10	15	11	18
51. 運動に親しむ習慣	79	43	7	10	13	21
52. 健やかな身体	50	27	6	9	24	39
53. たくましい体力	37	20	14	21	4	7
54. 道徳を大切にすること	46	25	16	24	17	28
55. コンピュータを活用する力	65	35	2	3	1	2
56. 外国語を学んで外国の人と接しようとする態度	56	30	3	4	5	8
57. 身に付けた知識や技能を活用する力	59	32	6	9	16	26
58. ボランティア活動を大切にすること	65	35	16	24	17	28
59. 郷土や国を愛する心	32	17	2	3	12	20
60. 世界の平和や国際親善に努める心	22	12	5	7	12	20

N=184

N=67

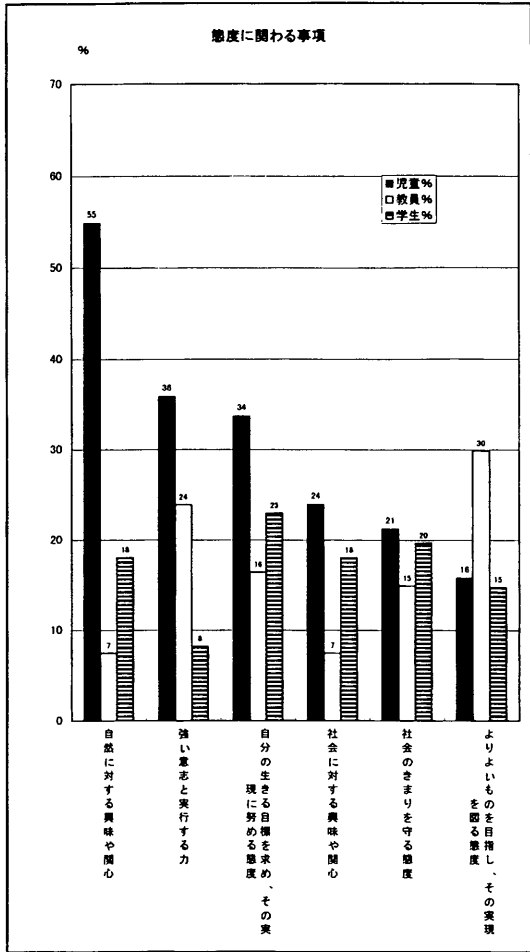
N=61



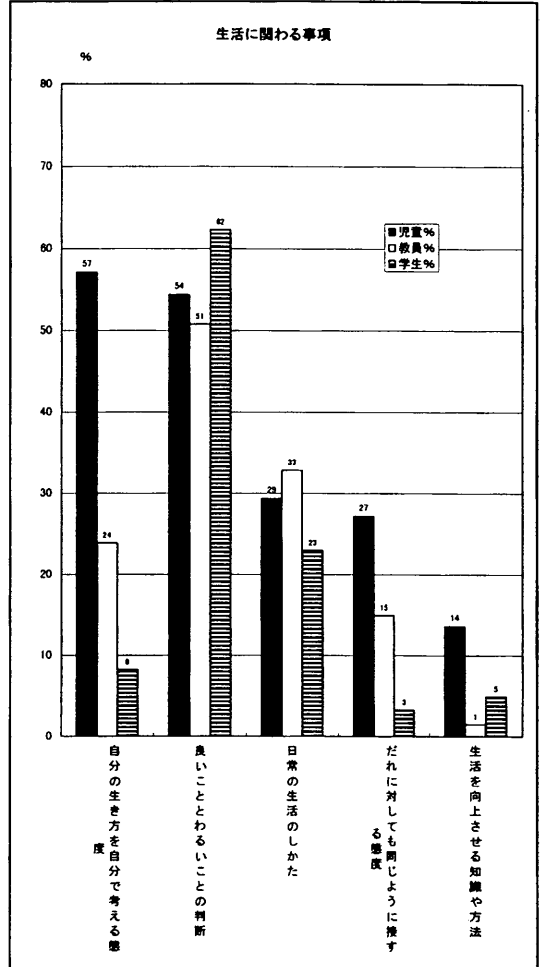
児童 N=184
 教員 N=67
 学生 N=61

図1 心に関わる事項 児童・教員・学生

伸長を図りたい子供の持つ可能性



児童 N=184
教員 N=67
学生 N=61



児童 N=184
教員 N=67
学生 N=61

図2 態度に関わる事項 児童・教員・学生

図3 生活に関わる事項 児童・教員・学生

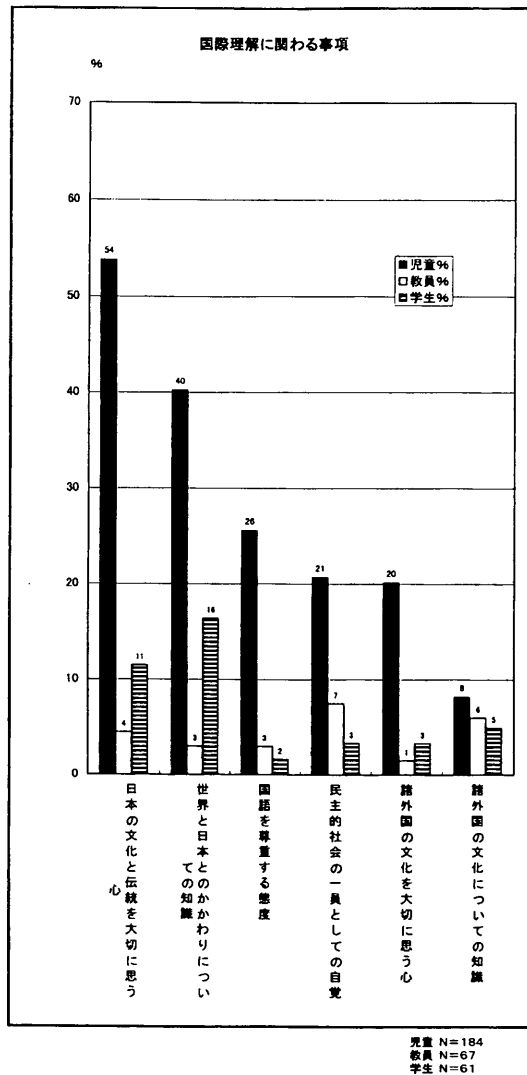
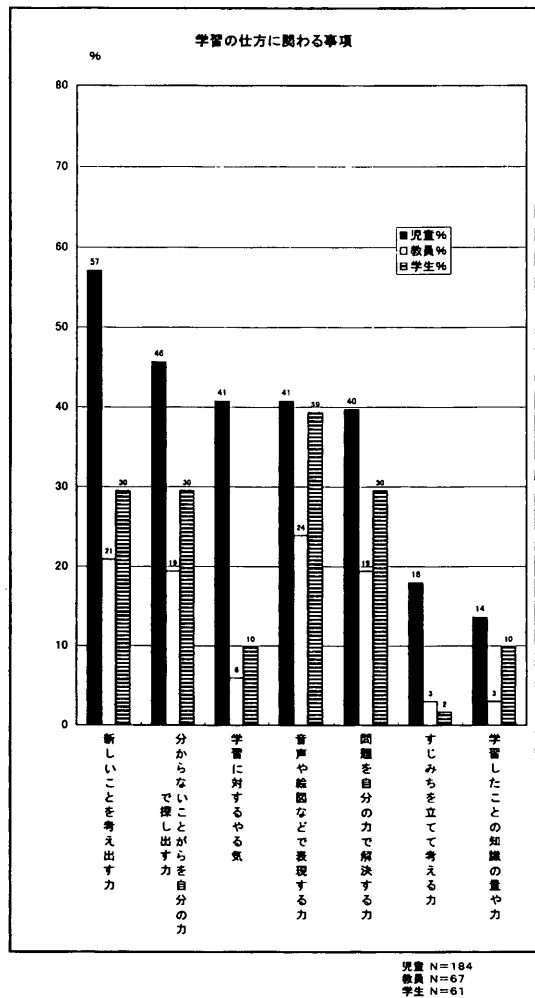
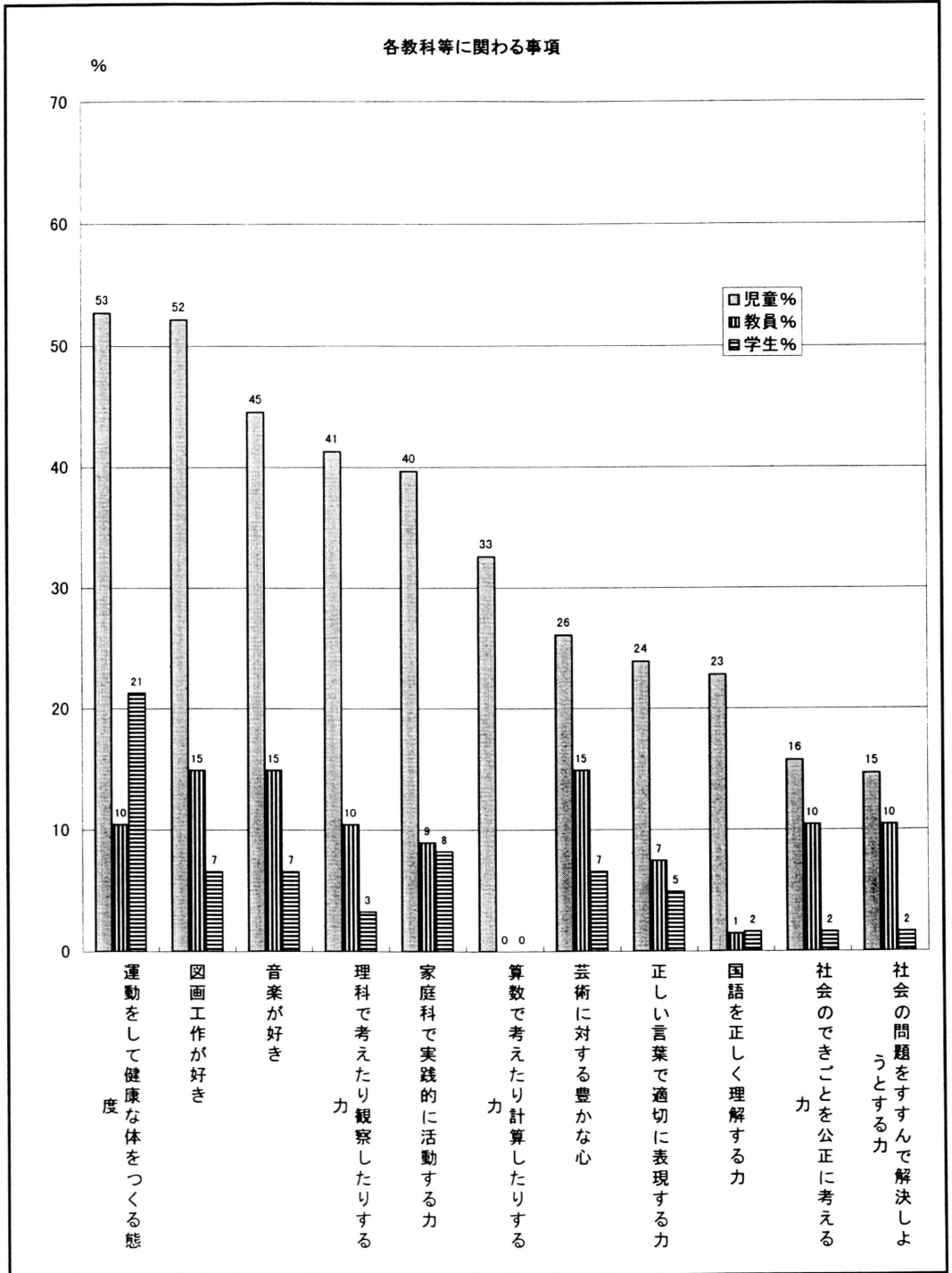


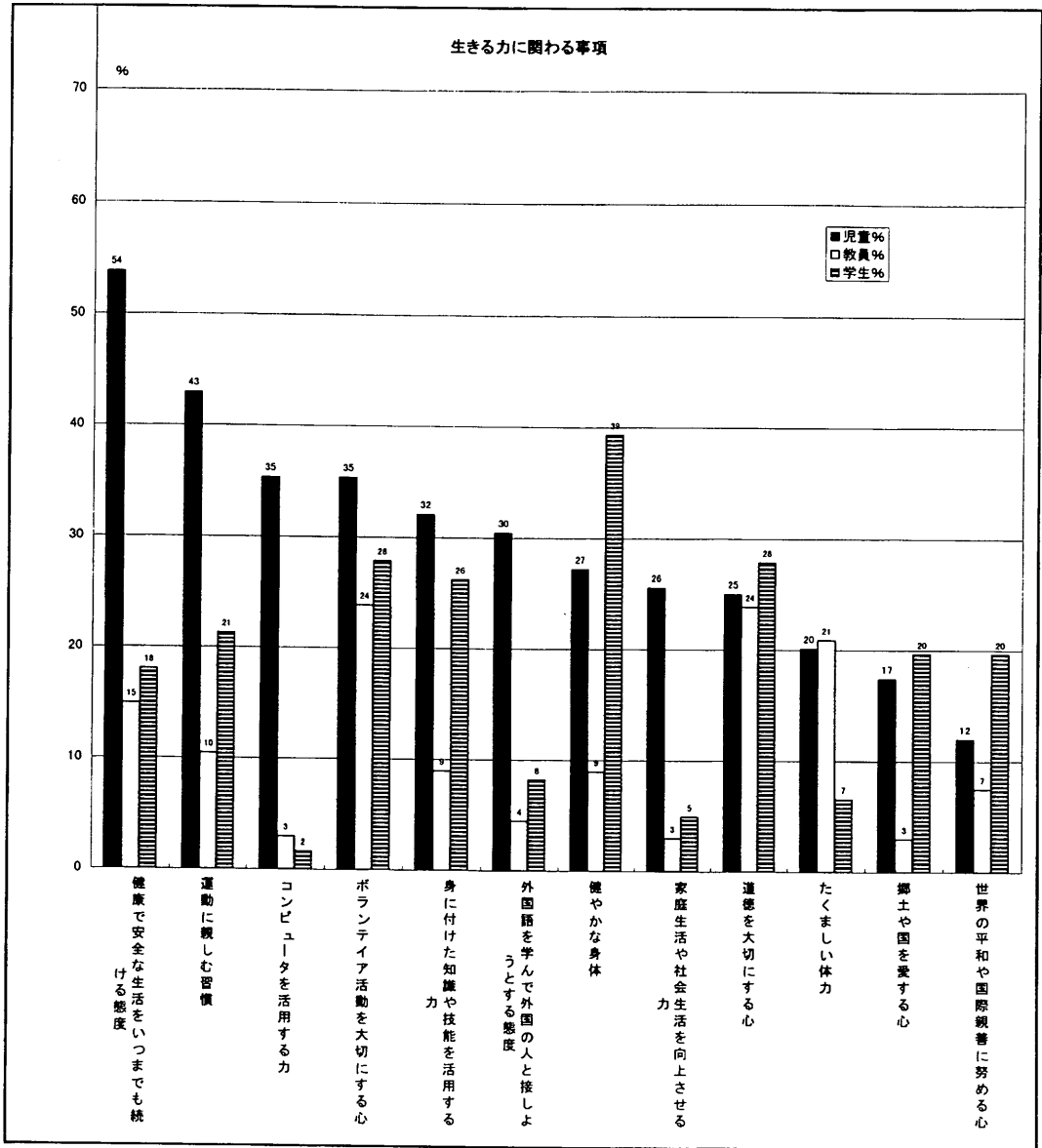
図4 学習の仕方に関わる事項 児童・教員・学生

図6 国際理解に関わる事項 児童・教員・学生



児童 N=184
 教員 N=67
 学生 N=61

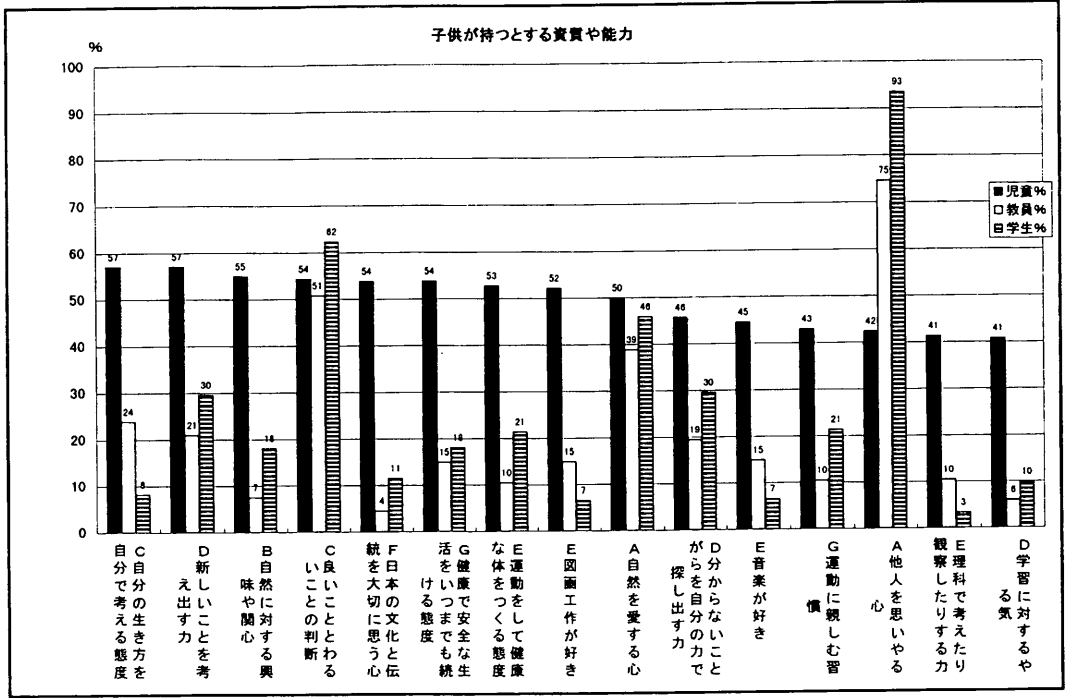
図5 各教科等に関わる事項 児童・教員・学生



児童 N=184
 教員 N=67
 学生 N=61

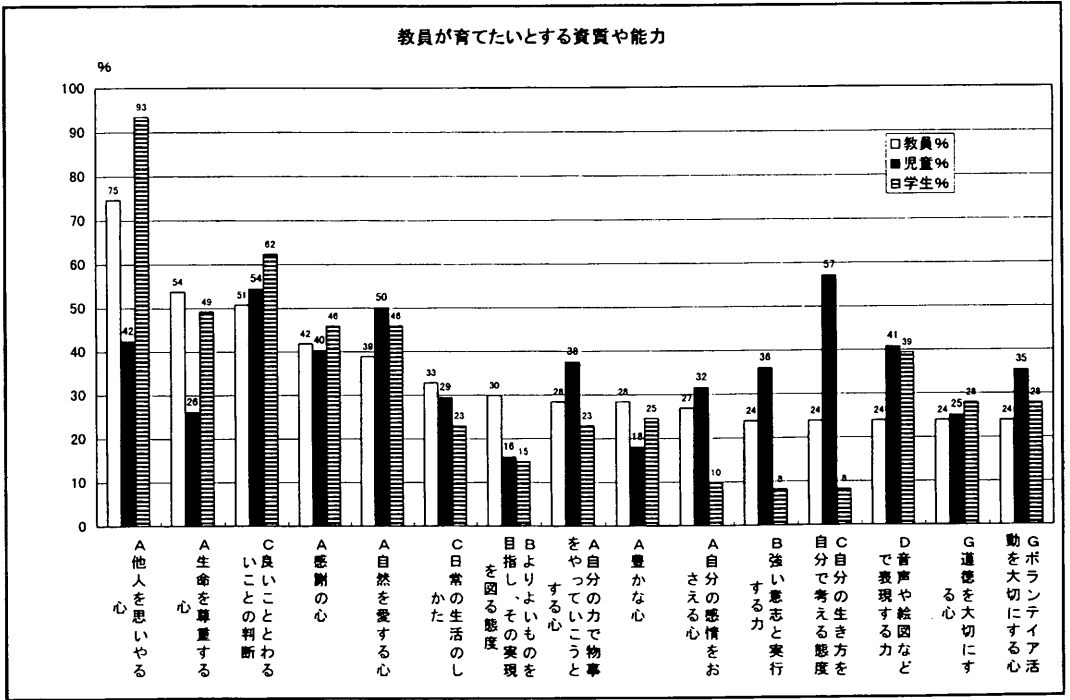
図7 生きる力に関わる事項 児童・教員・学生

伸長を図りたい子供の持つ可能性



児童 N=184 教員 N=67 学生 N=61

図8 児童が持つとする資質や能力との関連



教員 N=67 児童 N=184 学生 N=61

図9 教員が育てたいとする資質や能力との関連

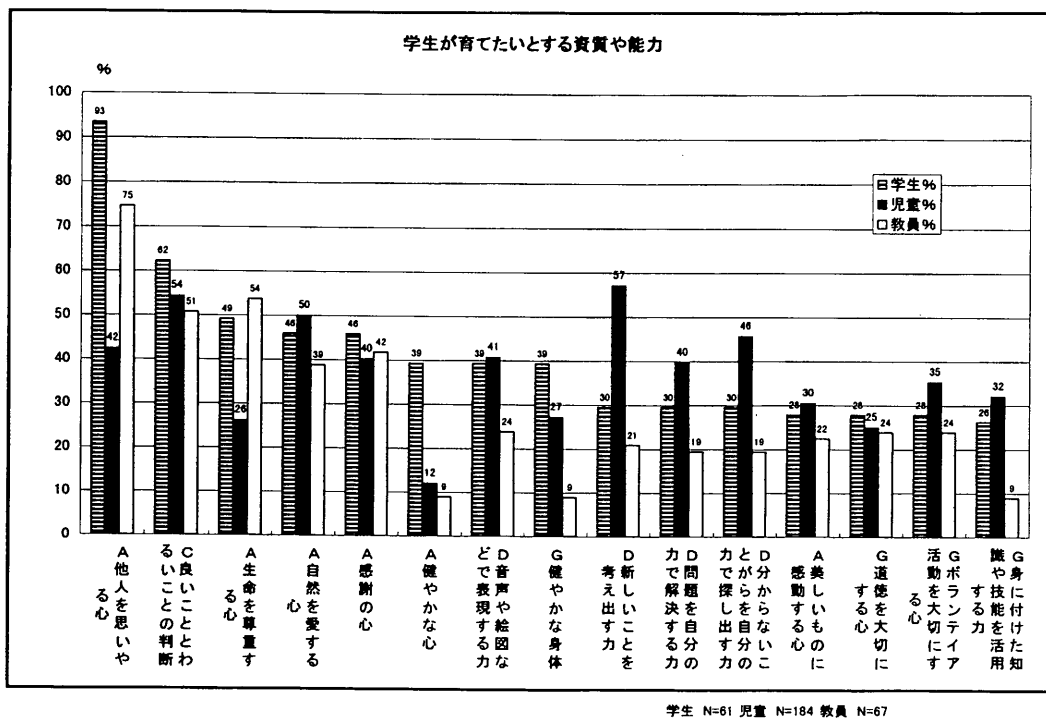


図10 学生が育てたいとする資質や能力との関連

3. 児童，教員，学生の特徴

図8から図10までは児童，教員，学生が上位に選んだ資質や能力と各々を対比したものである。

① 子供が持つとする資質や能力 (図8)

自分の生き方を自分で考える，創造性や自然に対する興味関心があるとしている。

ここでは，教員の他への思いやりと善悪の判断が際立っている。子供の特徴は，自然愛護，生き方を考える，創造性，文化と伝統の尊重，運動や健康への関心にある。

② 教員が育てたいとする資質や能力 (図9)

他への思いやりと生命の尊重，善悪の判断，感謝の心が強調されている。自然に対する興味や関心，運動や健康，創造性などの子供の意識とずれがある。

③ 学生が育てたいとする資質や能力 (図10)

他への思いやりと生命の尊重，善悪の判断，自然愛護と感謝の心が上位である。事項別で見

てみると，他への思いやり，善悪の判断，表現力，運動や健康への関心などで，子供の意識に通じるものがある。

4. 小学校のまとめ

小学校関係についてのまとめと今後の課題を下記のように把握している。

〈まとめと課題〉

- 資質・能力並びに態度の抽出の方法においては，特に重視される事項に焦点を当て，現在，社会から要請されていることは概ね網羅していると思う。
- 一昨年度の調査において，現職教員と学生を対象にし，昨年度と今年度，子供まで広げたこと。更に互いに対比したことは，一層の広がりを持たせることができたと考ええる。
- 現職教員並びに学生の選択は，心の教育に関する事項が多い傾向にあった。子供た

ちの関心は各教科等に関する事項に向けられている傾向があると言える。

- 子供が持っていると自覚している生命尊重の心、自然を愛する心、感謝の心、善悪の判断、自らの生き方を自らで考える力については、注目したいところである。
- このことは、当グループで目的としているところの「子供が有している資質・能力並びに態度をいかに伸長を図るか」に通じるものだからである。

以上で小学校関係の記述を終了する。

Ⅲ 幼児に関する調査

高橋 裕子

伸長をはかりたい子どもの資質や能力、態度について、前記述の小学校児童からさらに年齢の低い幼児の段階では、どのような事柄が重視されているのかを調べる事を目的に今回の調査を計画した。

H9年度は、幼稚園で、幼児の教育にたずさわっている保育者を対象とした調査を行った。

H10年度においては、幼児の生活に最も近い関係である保護者を対象として選択した。

その結果を次の2つの視点から考察を試みた。

- 1) 幼児の年齢が増すことによって、重視する項目に変化があるのか。
- 2) 保育者の重視する項目と保護者の重視する項目との間に違いがあるのか。

1. 資質や能力の項目の抽出

調査項目は、平成元年度改訂の「幼稚園教育要領」を分析し、幼児期に育てたい資質や能力、態度の項目を客観的に抽出した。

「幼稚園教育要領」では、幼児期の特性をその生活と発達の側面からとらえ、その教育の基本を「環境を通して行う教育」に置いている。それに関連して、最も重視すべき事項として、

- 幼児期にふさわしい生活の展開

- 遊びを通しての総合的な指導
- 一人一人の特性に応じた指導

の3点をあげ、これらをふまえての幼稚園教育の目標を5領域としてまとめている。

これを生かし、今回の調査においても、抽出した88項目を下記のように5領域に分類した。

(1) 心身の健康に関する領域「健康」16項目

- ① 体験を通して自己の生活を確立する。
- ② 身体的な発達の基礎をつくる。
- ③ 運動機能の発達。
- ④ 活動性の高まり。
- ⑤ 幼児自身が自らの生活と関連付けながら、必要感をもって身に付ける。
- ⑥ 幼児の心の安定。
- ⑦ 自ら健康、安全で幸福な生活をつくりだしていこうとする力の基礎を培う。
- ⑧ 心や体を働かせて活動をつくりだし、展開する。
- ⑨ 自発的な活動としての遊びをする。
- ⑩ 遊ぶことを通して、達成感、挫折感、葛藤、充足感を味わう。
- ⑪ 教師に温かく見守られているという信頼感をもつ。
- ⑫ 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度。
- ⑬ 生きることに喜びを感じる。
- ⑭ 取り組む充実感や満足感を味わいながら健康な体をつくる。
- ⑮ 人への愛情や信頼感をもつ。
- ⑯ 全身で物事に取り組み、活動に没頭する。

(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」19項目

- ① 主体性を身に付ける。
- ② 教師や友達と様々な活動を楽しく展開する。
- ③ 多様な人々との出会いやかかわり。
- ④ 大勢の友達と活動を展開する充実感。

- ⑤ 集団生活の場で共通の興味や目的をもって生活を展開する。
- ⑥ 友達関係を広げる。
- ⑦ 友達の大切さに気付く。
- ⑧ 友達のかかわりを通して様々な感情を体験する。
- ⑨ 相手も自分とは違った主張や感情をもった存在であることに気付く。
- ⑩ 社会的態度を身に付ける。
- ⑪ 協力して活動に取り組む。
- ⑫ 他の幼児と支え合って生活する。
- ⑬ 依存と自立との関係を十分に体験する。
- ⑭ してはならないことに気付く。
- ⑮ 自分のイメージと交流しながら、一緒に活動を展開する。
- ⑯ 親や教師の言動や態度の模倣。
- ⑰ 友達や物語の主人公への同一化。
- ⑱ 友達と十分にかかわった生活をする。
- ⑲ 教師との愛情や信頼感を基盤にして友達など様々な人とふれあう

(3) 身近な環境に関する領域「環境」

21項目

- ① 興味や関心の幅を広げる。
- ② 自分の生活を広げていこうとする意欲。
- ③ 様々な出来事や文化とであう。
- ④ 知的好奇心や探求心を満足させる。
- ⑤ 自分でよく見たり取り扱ったりする。
- ⑥ 好奇心や探求心といった知的な発達。
- ⑦ 生活がより豊かに楽しく展開できる。
- ⑧ 環境にかかわって、主体性を十分に発揮して展開する。
- ⑨ 行動範囲を拡大する。
- ⑩ 自然などの身近な事象への豊かな心情や思考力の芽生え。
- ⑪ 興味を抱き、知的好奇心を呼び起こす。
- ⑫ 生活の中で知識や技能を教えられて身に付ける。
- ⑬ 興味や関心を持った対象と十分にかかわり合う。

- ⑭ 生活を自立する。
- ⑮ 自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験。
- ⑯ 自分の力で様々な活動に取り組む体験。
- ⑰ 幼児自身が環境とかかわって遊びを展開する。
- ⑱ 自然に対して興味や関心をもつ。
- ⑲ 自然などの身近な事象と親しみをもって十分にかかわる。
- ⑳ 身近な環境を大事にしようとする心。
- ㉑ 自分から興味や関心をもって環境に主体的、意欲的にかかわる。

(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」

16項目

- ① 言葉を獲得し表現する喜びを味わう。
- ② 人と言葉を交わす楽しさを十分に味わう。
- ③ 互いに見たり聞いたりしたことなどを様々な方法で伝え合う。
- ④ イメージを伝え合う。
- ⑤ コミュニケーションを図る。
- ⑥ コミュニケーションの手段としての言葉を人とかかわりを通して獲得する。
- ⑦ 日常生活の中で言葉への興味や関心をもつ。
- ⑧ 言葉の楽しさや美しさに触れる。
- ⑨ 喜んで話したり聞いたりする態度。
- ⑩ 自分の思ったことや感じたことを伝えあう。
- ⑪ 言葉に対する感覚。
- ⑫ 絵本や物語に親しむ。
- ⑬ 教師の話掛ける言葉に触れる。
- ⑭ 日常生活に必要な簡単な標識や文字に関心をもつ。
- ⑮ 体験を通して、話したり聞いたりする。
- ⑯ 親しみをもって日常のあいさつをする。

(5) 感性と表現に関する領域「表現」

16項目

- ① 自分なりのイメージをもって友達と遊ぶ。
- ② 親や教師などの親しみをもっている大人の行動を模倣する。
- ③ 十分に自己を発揮する。
- ④ 創造性を豊かにする。
- ⑤ 物事に自分からかかわろうとする意欲をもつ。
- ⑥ 情緒や社会性といった人格形成の基礎を確立する。
- ⑦ 様々な活動を展開し充実感を味わう。
- ⑧ 豊かに表現しようとする意欲が高まる。
- ⑨ 互いの感情や意志を表現したり共感したりする。
- ⑩ 友達と生活を共にしながら感動を共有する。
- ⑪ 人間形成の基礎となる豊かな心情をもつ。
- ⑫ 豊かな心情や思考力の芽生えを培う。
- ⑬ かいったりつくったりすることを楽しむ。
- ⑭ 歌をうたったり簡単なリズム楽器を使う。
- ⑮ 想像する力。
- ⑯ 自分のイメージを演じて遊ぶ。

2. 調査の実施方法

(1) 平成9年度の調査

幼児を対象とした調査の実施では、幼稚園の保育者を対象に選んだ。また、これから保育者を目指して勉強中の児童学科学生にも同じ項目での調査を試みた。

調査方法は、保育に当たる場合に大事に思っている幼児の資質、能力、態度、心情についての質問紙法をとった。

抽出した88項目について、調査用紙を作成し、重視したい項目にそれぞれの領域ごとに3項目を選択し、○印をつけるようにした。

調査は、東京近辺の公立幼稚園16園と私立幼

稚園12園、計28園に勤務する保育者、及び本学児童学科4年生に依頼した。

調査対象、日程は下記のとおりである。

1. 調査対象：幼稚園保育者

[公立] 都内区立 8 園	32名
千葉県N市立 5 稚園	21名
[私立] 都内 5 園	41名
埼玉県 5 園	43名
	計137名

調査日程：

H 9 年10月初旬～H 9 年11月中旬

2. 調査対象：学4 児童・児教 158名

調査日程：H 9 年6月下旬

(2) 平成10年度の調査

保育者へ行った調査と同様の項目で、幼稚園園児の保護者へ幼児にとって必要と思われる資質、能力、態度、心情についての調査を実施した。調査用紙は表6に示した。

調査は、H 9 年度の幼稚園から公立幼稚園 2 園、私立幼稚園 1 園、計 3 園選択した。

調査の対象、日程は下記のとおりである。

1. 調査対象：

都内区立 1 園	89名
千葉県N市立 1 稚園	55名
埼玉県 1 園	214名
	計358名

調査日程：H10年9月中旬～10月下旬

3. 調査の結果

保護者に対する調査の結果は、幼児の年齢ごとの集計結果、およびH 9 年度の保育者・学生と比較した結果を並べて表7に示した。

表6 調査用紙 対象(幼稚園 保護者)

表7 アンケート集計表

4. 結果の整理

図11～図15は、集計結果を領域ごとに、年齢別及び保育者・学生との比較を図示した。

表6 調査用紙 対象(幼稚園 保護者)

調査用紙 その1 対象(幼稚園 保護者)

平成10年 月 日記入

お子さんの年齢(3歳・4歳・5歳)性別(男児・女児)

記入者(父・母・その他_____)年齢(_____)歳

(1)現在の幼児にとって、どのような資質や能力並びに態度を育てることが必要とお考えですか。次の各項目ごとに、とくに育てたいものを各領域それぞれ3項目選んで、()に○印を記入してください。

1. 心身の健康に関する領域「健康」

1. () 体験を通して自己の生活を確立する。
2. () 身体的な発達の基礎をつくる。
3. () 運動機能の発達。
4. () 活動性の高まり。
5. () 幼児自身が自らの生活と関連付けながら、必要感をもって身に付ける。
6. () 幼児の心の安定。
7. () 自ら健康、安全で幸福な生活をつくりだしていきこうとする力の基礎を培う。
8. () 心や体を働かせて活動をつくりだし、展開する。
9. () 自発的な活動としての遊びをする。
10. () 遊ぶことを通して、達成感、挫折感、葛藤、充足感を味わう
11. () 教師に温かく見守られているという信頼感をもつ。
12. () 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度。
13. () 生きることに喜びを感じる。
14. () 取り組む充実感や満足感を味わいながら健康な体をつくる。
15. () 人への愛情や信頼感をもつ。
16. () 全身で物事に取り組み、活動に没頭する。

2. 人とかかわりに関する領域「人間関係」

1. () 主体性を身に付ける。
2. () 教師や友達と様々な活動を楽しく展開する。
3. () 多様な人々との出会いやかかわり。
4. () 大勢の友達と活動を展開する充実感。
5. () 集団生活の場で共通の興味や目的をもって生活を展開する。
6. () 友達関係を広げる。
7. () 友達の大切さに気付く。
8. () 友達のかかわりを通して様々な感情を体験する。
9. () 相手も自分とは違った主張や感情をもった存在であることに気付く。
10. () 社会的態度を身に付ける。
11. () 協力して活動に取り組む。
12. () 他の幼児と支え合って生活する。
13. () 依存と自立との関係を十分に体験する。
14. () してはならないことに気付く。
15. () 自分のイメージと交流しながら、一緒に活動を展開する。
16. () 親や教師の言動や態度の模倣。
17. () 友達や物語の主人公への同一化。
18. () 友達と十分にかかわった生活をする。
19. () 教師との愛情や信頼感を基盤にして友達など様々な人とふれあう

3. 身近な環境とかかわりに関する領域「環境」

1. () 興味や関心の幅を広げる。
2. () 自分の生活を広げていこうとする意欲。
3. () 様々な出来事や文化とてあう。
4. () 知的好奇心や探求心を満足させる。
5. () 自分でよく見たり取り扱ったりする。
6. () 好奇心や探求心といった知的な発達。
7. () 生活がより豊かに楽しく展開できる。
8. () 環境にかかわって、主体性を十分に発揮して展開する。
9. () 行動範囲を拡大する。
10. () 自然などの身近な事象への豊かな心情や思考力の芽生え。
11. () 興味を抱き、知的好奇心を呼び起こす。
12. () 生活の中で知識や技能を教えられて身に付ける。
13. () 興味や関心を持った対象と十分にかかわり合う。
14. () 生活を自立する。
15. () 自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験。
16. () 自分の力で様々な活動に取り組む体験。
17. () 幼児自身が環境とかかわって遊びを展開する。
18. () 自然に対して興味や関心をもつ。
19. () 自然などの身近な事象と親しみをもって十分にかかわる。
20. () 身近な環境を大事にしようとする心。
21. () 自分から興味や関心をもって環境に主体的、意欲的にかかわる。

4. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

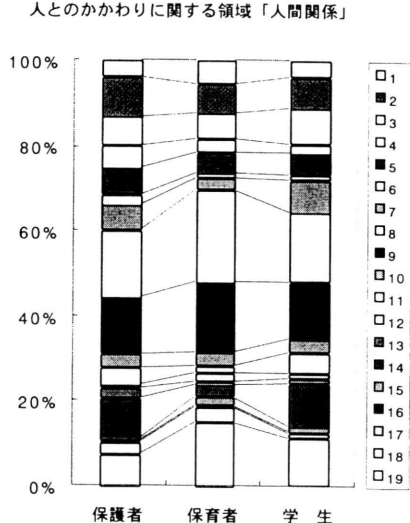
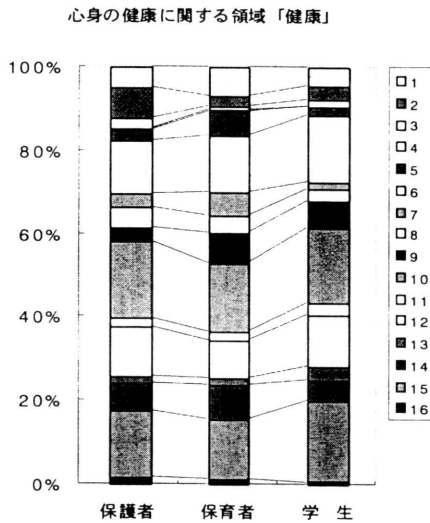
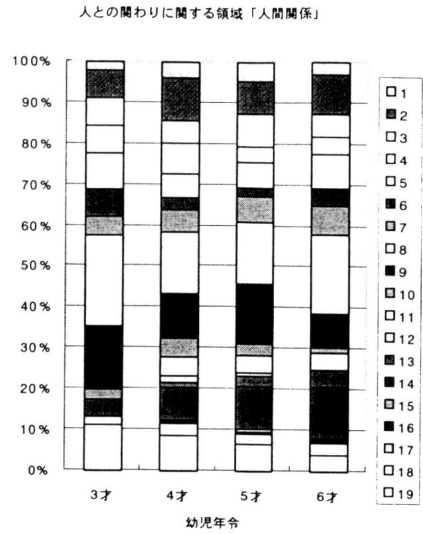
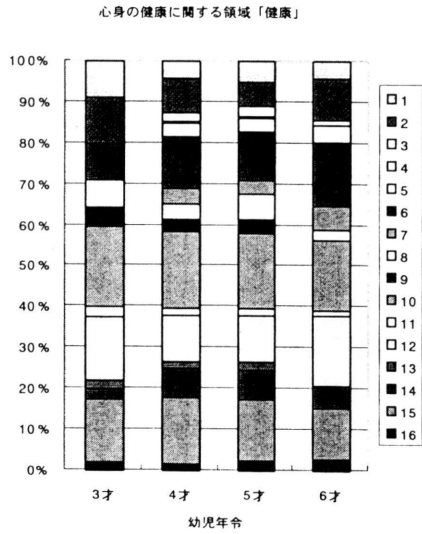
1. () 言葉を獲得し表現する喜びを味わう。
2. () 人と言葉を交わす楽しさを十分に味わう。
3. () 互いに見たり聞いたりしたことなどを様々な方法で伝え合う。
4. () イメージを伝え合う。
5. () コミュニケーションを図る。
6. () コミュニケーションの手段としての言葉を人とかかわりを通して獲得する。
7. () 日常生活の中で言葉への興味や関心をもつ。
8. () 言葉の楽しさや美しさに触れる。
9. () 喜んで話したり聞いたりする態度。
10. () 自分の思ったことや感じたことを伝えあう。
11. () 言葉に対する感覚。
12. () 絵本や物語に親しむ。
13. () 教師の話掛ける言葉に触れる。
14. () 日常生活に必要な簡単な標識や文字に関心をもつ。
15. () 体験を通して、話したり聞いたりする。
16. () 親しみをもって日常のあいさつをする。

5. 感性と表現に関する領域「表現」

1. () 自分なりのイメージをもって友達と遊ぶ。
2. () 親や教師などの親しみをもって大人の行動を模倣する。
3. () 十分に自己を発揮する。
4. () 創造性を豊かにする。
5. () 物事に自分からかわらうとする意欲をもつ。
6. () 情緒や社会性といった人格形成の基礎を確立する。
7. () 様々な活動を展開し充実感を味わう。
8. () 豊かに表現しようとする意欲が高まる。
9. () 互いの感情や意志を表現したり共感したりする。
10. () 友達と生活を共にしながら感動を共有する。
11. () 人間形成の基礎となる豊かな心情をもつ。
12. () 豊かな心情や思考力の芽生えを培う。
13. () いかたりつくったりすることを楽しむ。
14. () 歌をうたったり簡単なリズム楽器を使う。
15. () 想像する力。
16. () 自分のイメージを演じて遊ぶ。

表7 アンケート集計表

項目	保護者						児童											
	3才	4才	5才	6才	不明	合計	保護者	児童	学 生									
回答人数	15 100%	107 100%	207 100%	24 100%	8 100%	358 100%	358 100%	137 100%	158 100%									
1. 心身の健康に関する領域（健康）																		
1. 心身の健康に関する領域（健康）																		
1 体を鍛えて自己の生活を確立する。	4	27%	14	13%	31	15%	3	13%	2	33%	54	15%	54	15%	28	20%	13	8%
2 身体的な健康の基礎を固める。	5	33%	27	25%	37	18%	7	29%	0	0%	78	21%	78	21%	10	7%	10	6%
3 運動習慣の発達。	0	0%	7	7%	18	8%	1	4%	1	17%	25	7%	25	7%	2	1%	5	3%
4 活動性の高まり。	0	0%	1	1%	3	1%	0	0%	0	0%	4	1%	4	1%	2	1%	0	0%
5 幼児自身が自らの生活と関連付けながら、必要感をもって身に付ける。	0	0%	11	10%	19	9%	3	13%	1	17%	34	9%	34	9%	5	4%	5	3%
6 幼児の心の安定。	4	27%	41	38%	74	36%	11	46%	1	17%	131	37%	131	37%	54	39%	49	31%
7 自ら健康、安全で準備な生活をつくりだしていくことへの力の基礎を確立する。	0	0%	12	11%	21	10%	4	17%	2	33%	39	11%	38	11%	22	16%	6	4%
8 心や体を鍛えながら活動をつくりだし、展開する。	3	20%	13	12%	38	18%	2	8%	0	0%	56	16%	56	16%	19	14%	8	5%
9 自然的な活動としての遊びをする。	2	13%	9	8%	22	11%	0	0%	1	17%	34	9%	34	9%	28	20%	21	13%
10 楽しみを通して、運動、体験、展開、充足感を感じる。	9	60%	61	57%	114	55%	12	50%	3	33%	201	56%	200	56%	67	49%	54	34%
11 展開に意欲が興味が含まれているという感覚をもつ。	1	7%	5	5%	12	6%	1	4%	0	0%	20	6%	20	6%	8	6%	10	6%
12 健康、安全で準備な生活のための基本的な生活習慣を生活する。	7	47%	37	35%	68	33%	12	50%	2	33%	127	35%	126	35%	37	27%	37	23%
13 食べることに喜びを感じる。	1	7%	5	5%	13	6%	0	0%	0	0%	19	5%	19	5%	6	4%	10	6%
14 楽しみながら健康や生活習慣を身に付けながら健康な体をつくる。	1	7%	23	21%	44	21%	4	17%	1	17%	73	20%	73	20%	34	25%	14	9%
15 人への関心や信頼感をもつ。	7	47%	54	50%	95	46%	9	38%	2	33%	167	47%	167	47%	58	42%	60	38%
16 食事で健康に取り組み、活動に参加する。	1	7%	5	5%	15	7%	2	8%	0	0%	23	6%	23	6%	8	6%	2	1%
2. 人との関わりに関する領域（人間関係）																		
2. 人との関わりに関する領域（人間関係）																		
1 主体性を持つ。	1	7%	13	12%	29	14%	2	8%	0	0%	45	13%	45	13%	22	16%	13	8%
2 健康や安全と伴って活動を楽しむ展開する。	3	20%	37	35%	50	24%	7	29%	3	50%	100	28%	100	28%	29	21%	23	15%
3 多様な人との出会いややり取り。	3	20%	19	18%	50	24%	4	17%	1	17%	77	22%	77	22%	22	16%	26	16%
4 大勢の健康と安全と展開する実践。	3	20%	26	24%	26	13%	3	13%	0	0%	58	16%	58	16%	14	10%	7	4%
5 健康な生活の中で共通の興味や目的をもって生活展開する。	4	27%	20	19%	39	19%	6	25%	2	33%	70	20%	70	20%	20	15%	16	10%
6 高年齢感を広げる。	3	20%	10	9%	13	6%	3	13%	0	0%	29	8%	29	8%	4	3%	4	3%
7 高年齢の次世代に繋がる。	2	13%	19	18%	40	19%	5	21%	1	17%	67	19%	67	19%	12	9%	25	16%
8 高年齢の力を活かして得る価値を体験する。	10	67%	53	50%	97	47%	14	58%	5	63%	178	50%	178	50%	68	49%	52	33%
9 相手も自分もは違った意味や価値をもった存在であることに気付く。	7	47%	37	35%	93	45%	6	25%	2	33%	144	40%	144	40%	67	49%	44	28%
10 自分も価値をもつ。	1	7%	17	16%	17	8%	1	4%	1	17%	37	10%	37	10%	12	9%	9	6%
11 誇りを持って活動に取り組む。	0	0%	15	14%	28	14%	3	13%	1	17%	47	13%	47	13%	7	5%	13	8%
12 物の知見と楽しさを持って生活する。	0	0%	6	6%	3	1%	0	0%	0	0%	9	3%	9	3%	7	5%	4	3%
13 自分と自立との関係を十分に体験する。	0	0%	5	5%	18	8%	3	13%	0	0%	24	7%	24	7%	6	4%	4	3%
14 しほばないことと気付く。	2	13%	28	26%	67	32%	9	38%	1	17%	107	30%	107	30%	10	7%	32	20%
15 自分のイメージと交流しながら、一層に活動を展開する。	0	0%	0	0%	5	2%	0	0%	0	0%	5	1%	5	1%	8	6%	5	3%
16 画や線画の活動や健康の基礎。	0	0%	2	2%	2	1%	1	4%	0	0%	5	1%	5	1%	1	1%	1	1%
17 高年齢の主人へへの関心。	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%	2	1%	2	1%	0	0%	0	0%
18 高年齢に合わせた生活をする。	1	7%	11	10%	16	8%	2	8%	0	0%	30	8%	30	8%	14	10%	4	3%
19 健康との関係や信頼感を基礎にして高年齢と協力しながら楽しむ。	5	33%	30	28%	42	20%	3	13%	1	17%	81	23%	81	23%	62	45%	36	23%
3. 身近な環境との関わりに関する領域（環境）																		
3. 身近な環境との関わりに関する領域（環境）																		
1 興味や関心の幅を広げる。	3	20%	34	32%	46	22%	4	17%	1	17%	88	25%	88	25%	19	14%	13	9%
2 自分の生活を広げていくことと学ぶ。	0	0%	9	8%	12	6%	1	4%	0	0%	22	6%	22	6%	6	4%	6	4%
3 様々な出来事や文化について知る。	2	13%	23	21%	43	22%	4	17%	1	17%	79	21%	79	21%	4	3%	15	9%
4 知的関心や関心の高まりを感じる。	2	13%	7	7%	17	8%	1	4%	1	17%	27	8%	27	8%	15	11%	13	8%
5 自分で工夫したり取り組む。	3	20%	13	12%	24	12%	1	4%	0	0%	41	11%	41	11%	11	8%	11	7%
6 好きな活動などといった健康的な発達。	2	13%	13	12%	24	12%	5	21%	0	0%	44	12%	44	12%	5	4%	6	4%
7 生活がより豊かになる展開をする。	0	0%	8	7%	11	5%	4	17%	0	0%	23	6%	23	6%	14	10%	13	8%
8 環境にかかわらず、主体性を十分に発揮して展開する。	0	0%	5	5%	9	4%	2	8%	0	0%	16	4%	16	4%	13	9%	7	4%
9 行動範囲を拡大する。	4	27%	9	8%	8	4%	0	0%	0	0%	21	6%	21	6%	2	1%	6	4%
10 自然などの身近な環境への関心や関心の高まりの芽生え。	4	27%	38	36%	83	40%	11	46%	2	33%	138	39%	138	39%	59	43%	30	19%
11 興味や関心、知的好奇心を育む。	3	20%	19	18%	25	12%	5	21%	2	33%	53	15%	53	15%	10	7%	8	5%
12 生活の中で健康や技術を身に付けて身に付ける。	1	7%	9	8%	26	13%	3	13%	2	33%	40	11%	40	11%	2	1%	6	4%
13 興味や関心を持つことと関連して十分にやり取りする。	2	13%	14	13%	45	22%	6	25%	2	33%	69	19%	69	19%	37	27%	17	11%
14 生活を自覚する。	2	13%	1	1%	4	2%	0	0%	0	0%	7	2%	7	2%	1	1%	3	2%
15 自分の興味や関心に基づいた展開し、具体的な体験。	1	7%	6	6%	13	6%	0	0%	0	0%	20	6%	20	6%	32	23%	27	17%
16 自分の得意な活動に取り組む。	4	27%	21	20%	27	13%	3	13%	0	0%	55	15%	55	15%	18	13%	9	6%
17 幼児自身で健康や安全と関係して展開する。	0	0%	12	11%	26	13%	1	4%	1	17%	41	11%	41	11%	16	12%	22	14%
18 自分に対して興味や関心をもつ。	3	20%	25	23%	44	21%	4	17%	2	33%	78	22%	78	22%	15	11%	17	11%
19 自然などの身近な環境と関わりをもつ。	3	20%	29	27%	73	35%	8	33%	2	33%	115	32%	115	32%	46	34%	34	22%
20 身近な環境を大事にしよとする。	2	13%	28	26%	44	21%	7	29%	1	17%	82	23%	82	23%	20	15%	27	17%
21 自分から興味や関心をもつ環境を主体的、意図的に広げる。	4	27%	21	20%	29	14%	2	8%	0	0%	56	16%	56	16%	57	42%	33	21%
4. 言葉の関わりに関する領域（言葉）																		
4. 言葉の関わりに関する領域（言葉）																		
1 言葉を理解し展開する練習を味わう。	2	13%	12	11%	13	6%	1	4%	0	0%	28	8%	28	8%	14	10%	22	14%
2 人と言葉を交わす楽しさや学びを味わう。	4	27%	44	41%	56	27%	10	42%	2	33%	115	32%	115	32%	55	40%	46	29%
3 言葉にふさわしいことと楽しく学ぶ。	2	13%	15	14%	31	15%	2	8%	1	17%	51	14%	51	14%	24	18%	15	9%
4 イメージを伝える。	1	7%	0	0%	4	2%	0	0%	0	0%	8	2%	8	2%	2	1%	2	1%
5 コミュニケーションを図る。	2	13%	9	8%	22	11%	3	13%	1	17%	37	10%	37	10%	4	3%	8	5%
6 コミュニケーションの手続きや態度としての言葉や人との関わりを通して展開する。	3	20%	23	21%	45	22%	2	8%	1	17%	73	20%	73	20%	40	29%	21	13%
7 日常生活の中で言葉への興味や関心をもつ。	2	13%	10	9%	21	10%	2	8%	1	17%	36	10%	36	10%	24	18%	19	12%
8 言葉の楽しさや楽しさを味わう。	2	13%	6	6%	14	7%	0	0%	0	0%	22	6%	22	6%	9	7%	11	7%
9 言葉が話したりの楽しさを感じる。	5	33%	41	38%	92	41%	13	54%	1	17%	145	41%	145	41%	45	33%	40	25%
10 自分の話したことや聴いたこと伝える。	8	53%	54	50%	117	57%	13	54%	5	63%	196	55%	196	55%	86	63%	63	40%
11 聞きや話したい。	0	0%	5	5%	2	1%	0	0%	0	0%	7	2%	7	2%	3	2%	4	3%
12 言葉の楽しさを感じる。	8	53%	34	32%	77	37%	8	33%	1	17%	128	36%	128	36%	46	34%	29	18%
13 健康の関わりを感じる。	0	0%	3	3%	9	4%	2	8%	0	0%	14	4%	14	4%	2	1%	1	1%
14 日常生活に必要な関心や関心や文字に関心をもつ。	1	7%	8	7%	12	6%	2	8%	0	0%	23	6%	23	6%	7	5%	4	3%
15 身体を通して、話したり聴いたりする。	1	7%	19	18%	34	16%	2	8%	2	33%	58	16%	58	16%	22	16%	13	8%
16 楽しみをもって日常のあいさつをする。	4	27%	42	39%	84	41%	12	50%	2	33%	144	40%	144	40%	30	22%	29	18%
5. 感情と展開に関する領域（感情）																		
5. 感情と展開に関する領域（感情）																		
1 自分のイメージをもって高年齢と遊ぶ。	3	20%	4	4%	12	6%	1	4%	0	0%	20	6%	20	6%	34	25%		



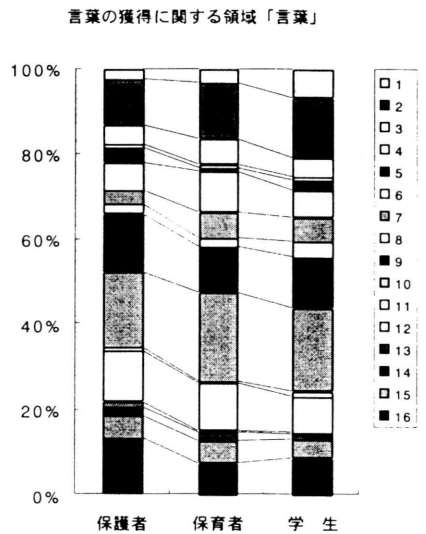
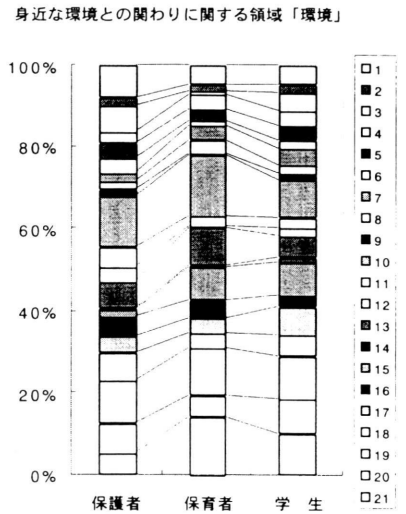
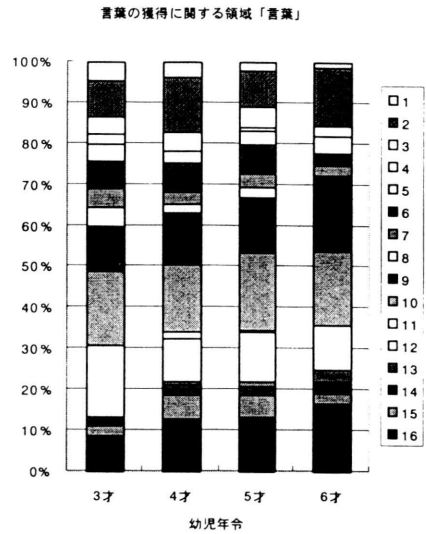
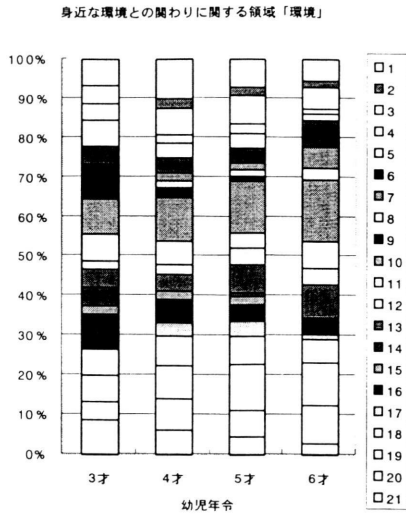
- ①体験を通して自己の生活を確立する。
- ②身体的な発達の基本をつくる。
- ③運動機能の発達。
- ④活動性の高まり。
- ⑤幼児自身が自らの生活と関連付けながら、必要感をもって身に付ける。
- ⑥幼児の心の安定。
- ⑦自ら健康、安全で幸福な生活をつくりだしていかうとする力の基礎を培う。
- ⑧心や体を動かして活動をつくりだし、展開する。
- ⑨自発的な活動としての遊びをする。
- ⑩遊ぶことを通して、達成感、挫折感、葛藤、充足感を味わう
- ⑪教師に温かく見守られているという信頼感をもつ。
- ⑫健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度。
- ⑬生きることに喜びを感じる。
- ⑭取り組む充実感や満足感を味わいながら健康な体をつくる。
- ⑮人への愛情や信頼感をもつ。
- ⑯全身で物事に取り組み、活動に没頭する。

- ①主体性を身に付ける。
- ②教師や友達と様々な活動を楽しく展開する。
- ③多様な人々との出会いやかかわり。
- ④大勢の友達と活動を展開する充実感。
- ⑤集団生活の場で共通の興味や目的をもって生活を展開する。
- ⑥友達関係を広げる。
- ⑦友達の大切さに気付く。
- ⑧友達のかわりを通して様々な感情を体験する。
- ⑨相手も自分とは違った主張や感情をもった存在であることに気付く。
- ⑩社会的態度を身に付ける。
- ⑪協力して活動に取り組む。
- ⑫他の幼児と支え合って生活する。
- ⑬依存と自立との関係を十分に体験する。
- ⑭してはならないことに気付く。
- ⑮自分のイメージと交流しながら、一緒に活動を展開する。
- ⑯親や教師の言動や態度の模倣。
- ⑰友達や物語の主人公への同一化。
- ⑱友達と十分にかかわった生活をする。
- ⑲教師との愛情や信頼感を基盤にして友達など様々な人とふれあう

図11 領域「健康」 年齢別比較
領域「健康」 保護者・保育者・学生の比較

図12 領域「人間関係」 年齢別比較
領域「人間関係」 保護者・保育者・学生の比較

伸長を図りたい子供の持つ可能性

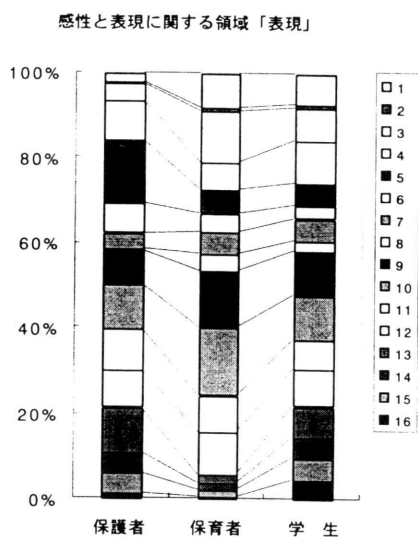
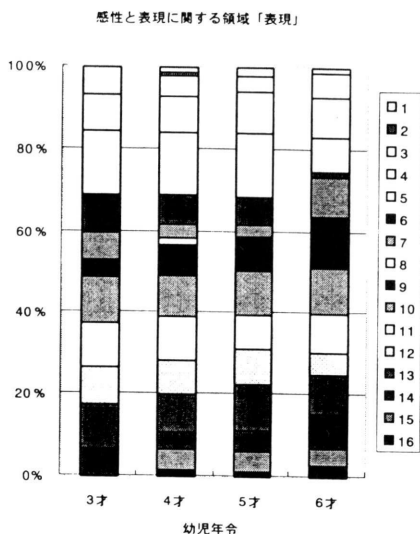


- ①興味や関心の幅を広げる。
- ②自分の生活を広げていこうとする意欲。
- ③様々な出来事や文化とであらう。
- ④知的好奇心や探求心を満足させる。
- ⑤自分でよく見たり取り扱ったりする。
- ⑥好奇心や探求心といった知的な発遣。
- ⑦生活がより豊かに楽しく展開できる。
- ⑧環境にかかわって、主体性を十分に発揮して展開する。
- ⑨行動範囲を拡大する。
- ⑩自然などの身近な事象への豊かな心情や思考力の芽生え。
- ⑪興味を抜き、知的好奇心を呼び起こす。
- ⑫生活の中で知識や技能を教えられて身に付ける。
- ⑬興味や関心を持った対象と十分にかかわり合う。
- ⑭生活を自立的にする。
- ⑮自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験。
- ⑯自分の力で様々な活動に取り組む体験。
- ⑰幼児自身が環境とかわって遊びを展開する。
- ⑱自然に対して興味や関心をもつ。
- ⑲自然などの身近な事象と親しみをもって十分にかかわる。
- ⑳身近な環境を大事にしようとする心。
- ㉑自分から興味や関心をもって環境に主体的、感性的にかかわる。

- ①言葉を獲得し表現する喜びを味わう。
- ②人と言葉を交わす楽しさを十分に味わう。
- ③互いに見たり聞いたりすることを様々な方法で伝え合う。
- ④イメージを伝え合う。
- ⑤コミュニケーションを図る。
- ⑥コミュニケーションの手段としての言葉を人とのかわりを通して獲得する。
- ⑦日常生活の中で言葉への興味や関心をもつ。
- ⑧言葉の楽しさや美しさに触れる。
- ⑨喜んで話したり聞いたりする態度。
- ⑩自分の思ったことや感じたことを伝えあう。
- ⑪言葉に対する感覚。
- ⑫絵本や物語に親む。
- ⑬教師の話掛ける言葉に触れる。
- ⑭日常生活に必要な簡単な構文や文字に関心をもつ。
- ⑮体験を通して、話したり聞いたりする。
- ⑯親しみをもって日常のあいさつをする。

図13 領域「環境」 年齢別比較
領域「環境」 保護者・保育者・学生の比較

図14 領域「言葉」 年齢別比較
領域「言葉」 保護者・保育者・学生の比較



- ①自分なりのイメージをもって友達と遊ぶ。
- ②親や教師などの様子をもっている大人の行動を模倣する。
- ③十分に自己を発揮する。
- ④創造性を豊かにする。
- ⑤物事に自分からかわらうとする意欲をもつ。
- ⑥情緒や社会性といった人格形成の基礎を確立する。
- ⑦様々な活動を展開し充実感を味わう。
- ⑧豊かに表現しようとする意欲が高まる。
- ⑨互いの感情や意志を表現したり共感したりする。
- ⑩友達と生活を共にしながら感動を共有する。
- ⑪人間形成の基礎となる豊かな心情をもつ。
- ⑫豊かな心情や思考力の芽生えを培う。
- ⑬かいたりつくったりすることを楽しむ。
- ⑭歌をうたったり簡単なリズム楽器を使う。
- ⑮想像する力。
- ⑯自分のイメージを演じて遊ぶ。

図15 領域「表現」 年齢別比較区
領域「表現」 保護者・保育者・学生の比較

図11 領域「健康」 年齢別比較
領域「健康」 保護者・保育者・学生の比較

図12 領域「人間関係」 年齢別比較
領域「人間関係」 保護者・保育者・学生の比較

図13 領域「環境」 年齢別比較
領域「環境」 保護者・保育者・学生の比較

図14 領域「言葉」 年齢別比較
領域「言葉」 保護者・保育者・学生の比較

図15 領域「表現」 年齢別比較区
領域「表現」 保護者・保育者・学生の比較

5. 考察

1) 領域「健康」

上位項目3位は、次のとおりであった。

1位：[10] 遊ぶことを通して、達成感、挫折感、葛藤、充足感をあじわう。

2位：[15] 人への愛情や信頼感をもつ。

3位：[6] 幼児の心の安定。

・年齢差

1位が一致しており、他の項目についても順位がほぼ等しく差がほとんどみられない事に特徴があった。

・保育者との比較

上位3位は一致していた。

特に差が認められた項目には次の2項目があげられる。

[2] 身体的発達の基礎をつくる。保護者(21%) 保育者(7%)

[9] 自発的な活動としての遊びをする。保護者(9%) 保育者(20%)

保育者の視点が、幼児自身の心の動きを重視しているのに対して、保護者は、健康が大事と考えているのが伺われる。

2) 領域「人間関係」

上位項目3位は、次のとおりであった。

1位：[8] 友達のかかわりを通して様々な感情を体験する。

2位：[9] 相手も自分とは違った主張や感情をもった存在であることに気づく。

3位：[14] してはならないことに気づく。

・年齢差

年齢が上がるに従って、割合が増加している項目は、[14] で、3歳（13%）4歳（26%）5歳（32%）6歳（38%）であった。

年齢が上がるに従って、割合が減少している項目は、[19] 教師との愛情や信頼感を基盤にして友達などさまざまな人とふれあう。で、3歳（33%）4歳（28%）5歳（20%）6歳（13%）であった。

・保育者との比較

1位・2位は一致。

差が認められた項目には、次の2項目があげられる。

[14] 保護者（30%）保育者（7%）

[19] 保護者（23%）保育者（45%）

保育者が幼児の生活上で、社会性を重視しているのに対して、保護者が、いわゆる「しつけ」的な面を重要視していると考えられる。

3) 領域「環境」

全体として、各項目に大きな差がないのが特徴である。

上位項目3位までは、次のとおりである。

1位：[10] 自然などの身近な事象への豊かな心情や思考力の芽生え。

2位：[19] 自然などの身近な事象と親しみをもって十分にかかわる。

3位：[16] 興味や関心の幅を広げる。

・年齢差

すべての年齢で1位である項目は[10]である。加えて、年齢が上がるに従って、割合が増加している事が認められる。3歳（27%）4歳（36%）5歳（40%）6歳（46%）

・保育者との比較

1位[10]は一致しており、[19]も保護者（2位）保育者（3位）と上位である。

差が認められる項目は、次の3項目であった。

[3] 様々な出来事や文化とであう。保護者（21%）保育者（3%）

[15] 自分の興味や欲求に基づいた直接的・具

体的な体験。保護者（6%）保育者（23%）

[21] 自分から興味や関心をもって環境に主体的・意欲的にかかわる。保護者（16%）保育者（42%）

この領域においても、保育者が、幼児自身の主体性を含んだ項目を選択しているのに対して、保護者は、子どもが会おう事その事に反応して選択しているのがうかがえる。

4) 領域「言葉」

上位項目3位の項目は、次の項目である。

1位：[10] 自分の思ったことや感じたことを伝えあう。

2位：[9] 喜んで話したり聞いたりする態度。

3位：[16] 親しみをもって日常のあいさつをする。

・年齢差

1位は一致しており、[10]の項目は、各年齢で50%を超える割合を示した。

年齢が上がるに従って、割合が増加している項目は[9][16]で、[9]は、3歳（33%）4歳（38%）5歳（41%）6歳（54%）となっており、[16]は、3歳（27%）4歳（39%）5歳（41%）6歳（50%）である。

保護者の要求が年齢が増すに従って、幼児の日常の挨拶や態度などの「しつけ」的な面が重要視されていくのが認められた。

・保育者との比較

1位は一致しており、すべての項目にほとんど差がないのが、特徴である。

5) 領域（表現）

上位項目3位の項目は、次のとおりである。

1位：[5] 物事に自分からかかわろうとする意欲をもつ。

2位：[10] 友達と生活を共にしながら感動を共有する。

3位：[13] かいたりつくったりすることを楽しむ。

・年齢差

各項目に分散し、年齢差がほとんど認められない事に特徴がある。

・保育者との比較

5領域のなかで、保護者と保育者の差がもっとも大きい。

項目 [10] は、保護者 (32%) 保育者 (47%) 共高い割合を示している。

[5] 保護者 (46%) 保育者 (16%)

[13] 保護者 (32%) 保育者 (6%)

[1] 自分なりのイメージをもって友達と遊ぶ。保護者 (6%) 保育者 (25%)

[3] 十分に自己を発揮する。保護者 (13%) 保育者 (36%)

[9] 互いの感情や意志を表現したり共感したりする。保護者 (24%) 保育者 (40%)

6) まとめ

- ・年齢によって最も大きな差が認められた領域は「人間関係」であった。
- ・保護者と保育者の重視する項目が最も一致している領域は「言葉」であった。
- ・保護者と保育者の重視する項目が最も差があった領域は「表現」であった。

6. 今後の課題

- ・より年齢の低い乳児から保育を実践している保育所保育者を対象としての調査も検討したい。

IV まとめと今後の課題

本研究の全体のまとめをしたい。

- ・調査内容を慎重に検討し、幼稚園・小学校について、幼児・児童と教員・保護者等の意識を把握する調査を実施することができた。
- ・特に、幼児については、保護者の考えを把握し、教員との対比を図ることができた。
- ・特に、児童については、教科に関する事項と教育活動一般に関する事項を別項目とし、それに相応の調査を実施するところまでできた。
- ・研究の対象は子供であることを念頭において、平成10年度の調査研究を推進し、これで、3年間の研究が終了した。
- ・質問紙から更に行動観察や面談法による調査を予定したが、実施できなかった。

- ・平成10年12月に、幼稚園の新教育要領並びに、小学校・中学校の新学習指導要領の公示があった。総合的な学習等に生かしたいところであるが、本研究の資料について、今後どう活用を図るかが残された課題である。

文献等

- (1) 昭和41年 中央教育審議会 答申
- (2) 昭和46年 中央教育審議会 答申
- (3) 昭和51年 教育課程審議会 答申
- (4) 昭和56年 中央教育審議会 答申
- (5) 昭和58年 中央教育審議会 教育内容等小委員会審議経過報告
- (6) 昭和62年 臨時教育審議会 答申
第二次答申
第四次(最終)答申
- (7) 昭和62年 教育課程審議会 答申
- (8) 平成元年 文部省 幼稚園教育要領
- (9) 平成元年 文部省 小学校学習指導要領
- (10) 平成2年 中央教育審議会 答申
- (11) 平成2年 中央教育審議会審議経過報告
- (12) 平成3年 文部省、小・中、児童・生徒指導要録の改訂(通知)
- (13) 平成3年 中央教育審議会 答申
- (14) 平成6年 文部省調査研究協力者会議
「学校五日制について」 審議のまとめ
「学校週五日制」について文部省(通知)
- (15) 平成7年 第15期中央教育審議会発足
「諮問事項」
- (16) 平成8年 中央教育審議会第一小委員会
「審議のまとめ」
- (17) 平成9年 中央教育審議会第二次答申
「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」
- (18) 平成9年 教育課程審議会(中間まとめ)
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について」